

市電の悪質更生案は全労働者への挑戦

激

市電のストライキに対して  
東電の全労働者は訴ふ

市電の兄弟は遂に起つて。  
餓死を強要するが如き市電當局の整理案を粉砕する為めに断叫  
して起つたのだ。今更言ふまでも無く此の未曾有の極悪なる整  
理案が実施されれば一体どう成るのだ。

日本の資本家は必然是々間似る事は火を取  
ぬより明きりかな問題である。

無配を口実に東電でもやりかねる位にせよ。従つて此の市電の兄  
弟に下されし弾圧は実に全労働者への弾圧と言ふ可きである。

吾々は昨年示多人の債下りを強行され、併し今度市電の兄弟に  
下されし債下りは、それを比喩に成りぬ位にもつと、大まなものである。  
殊に今度のストライキ参加者の中に、吾々と同じ株主仕事をやつて居る  
電燈・電力の兄弟の余りにも多数ある事を異議してはならぬ。

吾々は社会人衆党及び日本労働組合會議を通じて種々な方法を應援に  
努力して居るが、最も重要性を有する此の市電ストライキを遂行せしむ  
るために

東電従業員組合独自の立場から徹底的應援を

しなくてはならぬ。  
其れが為めに吾東電従業員組合は五日夜緊急常任委員会を開いて最死  
果敢争闘の應援方法を就いて協議し、結果、全職場を通じて應援基金運  
動を起す事に決まらした。

諸君に於かれても直ちに争議應援基金運動に  
應募して呉れ。

昭和九年九月五日

東電従業員組合本部